

令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る 業務の実績に関する評価結果に対する対応

地方独立行政法人法第29条の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学評価委員会による「令和元年度及び中期目標評価（4年終了時）に係る業務の実績に関する評価結果」の反映状況を公表します。

なお、以下に掲げる課題（指摘事項）は、全体評価及び大項目別評価において課題として指摘されている事項のうち、本学において特に課題対応が必要であると考えられる事項から抽出しています。

■課題（指摘事項）1

課題 (指摘事項)	全体評価 今後、次期中期目標期間を見据えた将来計画を策定するにあたって、「知の拠点」整備構想で中長期的課題と位置付けられている大学院の設置やキャンパスの充実などを検討されているが、市民や地域社会、産業界など外部からの意見を積極的に取り入れて、法人のさらなる発展、そして福知山公立大学が北近畿地域における「知の拠点」となるよう取り組んでいただきたい。
課題対応	令和2年度 令和2年度には、大学、教育、産業界及び行政より有識者が参画する福知山公立大学将来計画策定有識者会議を設置する。同会議では、大学を活かしたまちづくりの方向性や教育研究体制、地域連携、経営基盤など、様々な分野の有識者から意見を徴取し、本学の将来計画（骨子）を策定する。 また、「知の拠点」整備構想の実現を目指し、安定的な大学運営に向けた教職員数の適正化（令和2年9月1日現在：教員40人、事務職員19人）、電子化を含む業務効率化など、理事会や経営審議会、教育研究審議会、公立大学法人福知山公立大学評価委員会等で聴取した意見（重要課題）を将来計画に反映する。
課題対応	令和3年度以降 令和2年度に策定する将来計画の実現に向けた準備を進める。また、情報学部設置後の教員増員や地域連携及び研究を担う北近畿地域連携機構の充実、事務局体制の充実（複数人体制）など、教職員の増員に関して設置者と共に検討を進める。情報学部開設による文理連携についても、積極的に取り組んでいく。 なお、財政状況等を意識し、業務効率化に向けた洗い出しを行い、具体的な改善取組の検討と実施を行う。

■ 課題（指摘事項） 2

<p>課題 (指摘事項)</p>	<p>第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>大学運営の基礎となる優秀で多様な入学者の確保については、それ自体が教育の質の向上と大学評価につながるため、十分な入試実質倍率を実現して募集定員を充足させ、同時に入学者の質を維持・向上させる必要がある。その点では、設置認可の遅れによる影響はあるが、情報学部の初年度の倍率が期待されたほど高くなく、推薦入試（地域枠）にも改善すべき課題がある。</p>
<p>課題対応</p>	<p>令和2年度</p> <p>入試の実質倍率は重要であるが、情報学部の入学者については、令和2年度が初年度のため、質の評価に着手したところである。今後、入学者のGPA等の質の評価に係るデータを整理した上で、入試の実質倍率とともに適切な選抜の維持の面についても検討を行う。</p> <p>地域枠については、地元高校への学生募集活動に努めるとともに、入学者GPA等の質に係るデータの検討及び地元高校へのヒアリングを行い、最適な地域枠のあり方を検討する。</p> <p>令和3年度以降</p> <p>選抜区分ごとの入学者のGPA等の学生の質に関するデータを収集・検討をさらに進め、入学者選抜のあり方について、引き続き検討を重ねる。</p>

■評価委員会 課題（指摘事項） 3

<p>課題 (指摘事項)</p>	<p>第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置</p> <p>大学認証評価において指摘された改善勧告と努力課題への対応を確実に実施していただきたい。</p> <p><u>※改善勧告</u></p> <p>平成29年度において、地域経営学部（大学全体）では、学部全体と医療福祉経営学科で、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、それぞれ0.85、0.63と低い。また、同学科は、収容定員に対する在籍学生数比率も0.63と低いので、是正されたい。</p> <p><u>※努力課題</u></p> <p>①大学内に体育館の施設はなく、隣接する高等学校が所有する体育館を申請により利用できることとなっているが、高等学校側が利用していることが多いなど、学生が十分に活用できない状況にあるので、改善が望まれる。</p> <p>②図書館である「メディアセンター」において、専門的な知識を有する専任職員を配置していないので、改善が望まれる。</p> <p>③公立大学法人化する以前に、自己点検・評価が行われていない時期があったうえ、平成28年度に実施した自己点検・評価についても、その結果を年度計画等に反映する仕組みを確立していないため、自己点検・評価で抽出された課題等について改善につなげる仕組みを整備し、機能させることが望まれる。</p>
<p>課題対応</p>	<p>令和2年度</p> <p>認証評価で指摘された改善勧告と努力課題は、受審後改善を図ってきたところである。</p> <p>改善勧告においては、令和2年度時点で過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が、地域経営学部1.10、地域経営学科1.09、医療福祉経営学科1.14、収容定員に対する在籍学生数比率（全体）1.08となり、改善されている。</p> <p>努力課題①は、機会があるごとに設置者である福知山市と協議を続けている。本学のキャンパスマスタープラン2020でも優先事項として位置づけ、早期改善に向けて継続的な協議をしている。</p> <p>努力課題②は、令和2年度に専任職員1人をメディアセンターに配置し、改善している。</p> <p>努力課題③は、令和元年度の公立大学法人福知山公立大学評価委員会からの指摘を反映し、年度サイクルでの仕組みを整えてきたところであるが、切れ目なく業務改善及び教育研究活動に取り組むため、令和2年度において内部質保証の体制を整理し、継続的な自己点検・評価を行っていく。</p>
<p>令和3年度以降</p>	<p>平成29年度に受審した認証評価結果に対する改善報告書を遅滞なく認証評価機関に提出する。また、次期認証評価に向けて、自己点検・評価による内部質保証に継続的に取り組む。</p>